

## 「キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ」

### 1 趣 旨

日本海（海拔0m）から三瓶山頂（標高1126m）までの道のり（約45km）を、中継点で宿泊しながら、踏破することを目指す。この体験を通して参加児童に、自ら困難に挑戦し、やり遂げようとする力を養うとともに、家族と離れ、同年齢の仲間と集団生活をする中で、仲間の大切さや規範意識、集団との関わり方について気づかせる。また、活動の舞台となる三瓶山や石見銀山遺跡をはじめ、三瓶周辺地域の自然・歴史・文化への興味・関心を深め、自然保護意識を高めることをねらいとしている。

### 2 事業の概要

(1) 期 日：令和元年8月5日（月）～11日（日）【6泊7日】

(2) 参加者：小学生25名（4年生8名、5年生9名、6年生8名）

青年ボランティア10名（島根大学生10名）

(3) 主な日程

・令和元年6月18日（火）：学生スタッフへの事前説明会（趣旨説明、プログラム素案紹介）

・令和元年6月29日（土）～30日（日）：

事前踏査①（道具点検・準備、三瓶山登山道の安全確認 等）

・令和元年7月13日（土）～15日（月）：

事前踏査②（海岸の安全確認と救命訓練、熱中症予防対策講義、銀山道の安全確認 等）

・令和元年8月4日（日）：前日準備

	8月5日（月）	8月6日（火）	8月7日（水）	8月8日（木）
6:00		起床	起床 テント干し	起床 身辺整理
8:00		朝食（バイキング） 櫛島キャンプ場へ移動 テント設営（櫛島キャンプ場）	朝食（野外炊飯） テント撤収	朝食（野外炊飯）
10:00	受付・開会式 アイスブレイク	1st ステップ 沖泊（おきどまり）港 ～銀の積出し港で 食料を調達しよう～	2nd ステップ 沖泊～大森のまち ～沖泊（おきどまり） から大森の町を めざそう～	3rd ステップ 大森～粕淵のまち ～大森の町から粕淵 の町をめざそう～
12:00	昼食（バイキング）	・海での安全確認 ・海での活動 昼食（弁当） ・海で食糧調達	・約15kmを歩く。 昼食（弁当）	・大森の町並・やなしお 道を歩こう ・約18kmを歩く。 昼食（弁当）
14:00	～旅の準備をしよう～ ・班ミーティング ・きずなの旗づくり ・キャンプ道具準備		大森小学校	テント設営（カヌーの里おおち）
16:00				夕食（野外炊飯）
18:00	夕食（バイキング）	夕食（野外炊飯）	夕食（野外炊飯）	入浴（ゴールデンユートピア
20:00	入浴 銀山学習・丁銀作り ふりかえり	入浴（温泉津温泉：薬師湯） ふりかえり	入浴（湯迫温泉） ふりかえり	おおち） ふりかえり
22:00	就寝（宿泊棟）	就寝（テント泊）	就寝（大森小体育館泊）	就寝（テント泊）
	8月9日（金）	8月10日（土）	8月11日（日）	
6:00	起床 テント干し	起床 身辺整理	起床	
8:00	朝食（野外炊飯） テント撤収	朝食（野外炊飯）	朝のつどい 朝食（バイキング） 片づけ 昼食（バイキング）	
10:00	4th ステップ 粕淵～志学のまち ～粕淵から三瓶ふもとの まち（志学）をめざそう～	5th ステップ 三瓶山登山 ～仲間と力を合わせ山頂 に到達せよ～	～旅を終えて～ 全行程をふり返る	
12:00	・川辺の活動 昼食（弁当） ・志学の町たんけん	・グループで決めた登山 コースを登る。 昼食（弁当）		
14:00			閉会式・解散	
16:00				
18:00	志学小中学校 夕食（野外炊飯）	夕食（野外炊飯 BBQ）		
20:00	入浴（三瓶温泉：亀の湯） ふりかえり	入浴 ふりかえり		
22:00	就寝（志学小中体育館泊）	就寝（セミナーハウス）		

### 3 事業の内容

#### (1) 事業の特色

野外炊飯，テント泊，海や川での活動，登山など，自然の中での体験や，三瓶山・石見銀山遺跡などの歴史や文化に触れる6泊7日の集団生活を仲間と共に行うことで，目標に向かって挑戦し，困難に対してお互いに助け合いながら乗り越える力を養うことをめざした。

#### (2) プログラムデザインと企画のポイント

日本海（海拔0m）をスタートして三瓶山頂（標高1126m）を目指す。その際，世界遺産・石見銀山から銀を港へと運び出すために利用されていた石見銀山街道を通るコースを設定した。初日に，石見銀山遺跡についての学習を行い，丁銀キーホルダーを作成した。参加児童に対して「櫛島キャンプ場をスタートし，家に帰るまで丁銀を運ぶ。」というストーリーを設定することで，銀の道を歩くための意欲づけを行った。また，大森の町並み散策では，クイズラリー形式にすることで，楽しく歴史を学ぶことをめざした。今年度は，新たに川の活動を追加し，より地域に即したプログラムを展開した。最後のチャレンジになる三瓶山登山では，孫三瓶山から子三瓶山と経由し，男三瓶山の頂上をめざした。これまで一緒に活動してきたグループと力を合わせて登山することで，グループの絆を深められるようにした。

マイ食器，マイ寝袋，マイTシャツを参加費で購入し，自分の物は自分で責任をもって管理させたり，朝食のソロ炊飯とカートンドックは一人で作ったりというように自分の力を伸ばす場面を意図的に設定した。また，各活動や夕食の炊飯活動では，チームで協力して活動することとし，チーム力の向上をめざした。

### 4 成果と課題

※本事業では，青年ボランティアを「学生スタッフ」と呼んでいる。

項目	回答	満足	やや満足	やや不満	不満
	6泊7日のキャンプはどうでしたか	92%(23人)	4%(1人)	4%(1人)	0
プログラム内容はどうでしたか	88%(22人)	12%(3人)	0	0	0
時間的にはどうでしたか	52%(13人)	28%(7人)	12%(3人)	8%(2人)	0
職員の関わりはどうでしたか	80%(20人)	12%(3人)	4%(1人)	0	0
学生スタッフの関わりはどうでしたか	84%(21人)	4%(1人)	4%(1人)	0	0

○小学生アンケートの記述：実施後のアンケートより

- ・無理だと思うことは無理だと前は思っていたけど，友だちと頑張ってるやっているとやろうと思えるし，できないことは友だちが手伝ってくれたので良かったです。
- ・自分を変えられたし，テレビなどの電化製品を使わなくても生きていくことができることがわかった。家でもこのキャンプでしたことを活かして，進んで手伝いをしようと思う。
- ・知らない人がたくさんいて，7日間過ごせるか心配したけど，最終的にはたくさんの人と気軽に話せるようになり，仲良くなれて，自分に自信がもてたので良かったです。
- ・班のみんなと協力し，いろいろなことに挑戦し，とても充実した1週間を過ごすことができました。私は応募した時，「友だちができるかな？」と少し心配でした。だけどみんな親切で優しく話しかけてくれました。そのことですぐに仲良くなれ，素敵な1週間を送ることができました。

○小学生アンケートの記述：実施1カ月後のアンケートより

- ・キャンプに参加して，ささいなことですぐ怒らなくなりました。また，自分から進んで動くようになりました。学習発表会では，リーダーにチャレンジしたいと思います。
- ・私は，キャンプに行ってから，休日に時々，家族の分も朝ご飯を作れるようになりました。手伝いをたくさんしているので，それが成長したことです。また，キャンプ前は，最後まであきらめずにやりきるということがあまりできていなかったけど，キャンプに行ってから，最後まであきらめずにやりきるということができるようになりました。
- ・このキャンプを通して，人のために思ってがまんしたり，声をかけたり，行動することが増えました。自分かってなわがままを言うことがほとんどなくなり，体力がとてもたくさんつきました。

- ・最初はみんなと仲良くできるか心配だけど、班の人たちとご飯を食べたりして、仲を深めていくことができ、最後に三瓶山に登って、みんなと協力できたことが、とてもうれしかったし、楽しかったです。

○保護者アンケートの記述：実施1カ月後のアンケートより

- ・帰ってから「本当に一回りも二回りも成長したなあ」と思いました。一番変わったのは、食生活です。今までは、好きなものを好きなだけ食べていたのですが、キャンプから帰っては、好き嫌いなく苦手な野菜も食べられるようになりました。それと、どんなことでも頑張れる強い心が育った気がします。
- ・今までは、やってもらって当たり前だったのが、生活することの大変さなどが少しはわかったのか、お手伝いを進んでしてくれるようになりました。すぐにあきらめていた癖もできると信じて頑張っているように思います。きっと、キャンプ中に、できそうにないことも、やってみるとできたことが自信になったのではないかと思います。
- ・早速帰って、いただいた鍋で何回もご飯を炊きました。BBQで火をおこすのも張り切ってやってくれました。何より、このキャンプで出会った大学生さんとの思い出が大きく、帰りの車の中で嗚咽を漏らしながら号泣していました。素晴らしい体験と仲間、思い出をありがとうございます。一回りも二回りも成長し、心豊かになったと思います。
- ・色々なことに自信がつき、以前に比べてより行動的になりました。班のリーダーだったこともあり、運動会でも組のまとめ役となり、リーダーシップを発揮していました。

○青年ボランティアの記述：実施後のアンケートより

- ・このキャンプで私が一番感じたことは、子どもたちの成長はすごいということです。最初は班ごとに仲が悪かったり、なかなか自分で動けなかったりしていましたが、1週間後には男女仲良く、さらに班をこえて25人全員が仲良く協力していたし、テントを張ることも料理を作ることも自分たちから行動するようになっていたので、「1週間でこんなに成長するものなのか!？」ととても驚きました。

《 成 果 》

- ・6泊7日の長期のキャンプだからこそ、児童の著しい成長の様子を実感することができた。初対面の緊張感と、過酷なプログラム内容に不安を感じていた児童が、少しずつ友だちや青年ボランティアとの関わりを深めていったり、自分でできることを増やしていったりした。1日の振り返りでは、自分が頑張ったこと、友だちの良かったところを共有することで、自分の成長を実感し自信を深めた結果だと考える。時には、けんかや思い違いが生じることがあったが、互いに話し合い、解決することで、より強い絆へとつなげることができた。
- ・当初24名の募集としていたが、2年前から学校に登校しづらくなっているが、キャンプに参加して自信をつけて学校に行けるようになりたいという参加申込者がいた。そこで、特例として定員から1名増やしての参加を認めた。普段学校に行っていないので、友だちと協力して活動したり、相手の気持ちを考えたりして物事を進めていくことはなかなか難しかったが、スモールステップで目標を定め、それをクリアしていくことで、少しずつ自信がついたように感じられた。本人は、1カ月後のアンケートで、給食を食べに学校へ行けるようになった。嫌なことは嫌と言えるようになった等、成長を実感している様子である。また、キャンプ中、同じ班になった児童は、最初こそ不満を漏らしていたが、本人なりの頑張りを認め、温かく受け入れる雰囲気を作る等、周りの児童も大きく成長することができた。



班の子に手を振る様子



海の活動

- ・最終日の振り返りでは、自分のことよりも大学生への感謝のメッセージを真剣に書いている児童の姿がとても印象的だった。今回参加した青年ボランティアは、将来子どもたちと関わる仕事につきたいと考えている者が多かったため、子どもとの接し方を学ぶ上でとても役立ったようである。参加した全員に大変得るものがあり、win-winの関係が成り立っていた。



川の活動

- ・事前説明会、事前踏査で、本キャンプの「目的」「目標」「活動内容」「参加児童の様子・対応」等について、職員と青年ボランティアとの間で共通認識を図ることで、参加児童の自主的な活動につなげることができた。また、本番中は、スタッフミーティングにおいて、参加者全員の様子を共有することで、自分の班の児童だけではなく、参加した児童みんなに声を掛け、全員で見守る体制を築き、厚い支援につなげることができた。



大森の町並散策

- ・本事業に関わる職員、青年ボランティアは、事前に「海岸の安全確認と救命訓練」、「熱中症予防対策講義」を学ぶことで、本番では、参加児童の体調に気を配り、リスクを意識しながら活動するなど、安全への対応を図ることができた。

#### 《課題》

- ・昨年度と同様、6泊7日のキャンプを実施した。猛暑の時期の開催であり、できるだけアスファルトの上を歩かず、日陰の多い山道を歩くように設定した。しかし、夏の昼間に長い距離を歩くということは、体力的にも精神的にも大変である。熱中症予防のため、児童に水分を持たせ、スタッフは余分を持っていたが、予想以上に消費が早く、用意した飲料ではとても足りなかった。来年度は、参加費の設定や飲料の物品調達計画の見直しを検討する必要がある。



银山街道

- ・児童の体力や様子を見ながら活動を進めたり、入浴は、近隣の入浴施設まで移動したりしたため、夕食の炊飯やふりかえりの時間がどうしても遅くなってしまった。睡眠時間が少ないと体力が回復しないので、時間の管理の仕方について検討が必要である。



野外炊飯・テント泊

- ・長期キャンプを実施する上では、気象、活動場所、参加児童の体調等、常にリスクを意識し、危機管理を徹底しなければならない。今後も天候の変化や緊急時の対応について、適切に対処できるように、職員、青年ボランティアの意識の向上と、関係機関等との連携をより一層図っていく必要がある。

#### 《IKR アンケート》

- ・このキャンプにおいて、「生きる力」を測定・分析するため、参加者にIKRアンケートを実施した。結果としては、キャンプの前後では、「心理的社会的能力」、「身体的能力」に有意差が見られ、「生きる力」の育成につながったといえる。しかしながら、1ヶ月後の追跡調査においては、全体的には、事前調査からのわずかなポイント増加はあったが有意差は見られなかった。参加者や保護者の感想からは、「いろいろなことに積極的にチャレンジするようになった。」「手伝いを進んでするようになった。」等が見られるので、数字には表れなかったが、生きる力を醸成するきっかけづくりにはなったと考える。



银山街道

(企画指導専門職 宅間 邦晴)